ロシア帝国によるカザフ草原統治政策の地域性
――仲介者が示す「忠誠」の比較分析を通して――

長沼　秀幸

本報告では、19 世紀前半のカザフ草原を、オレンブルグ県管轄下の小ジュズと、西シベリア総督府管轄下の中ジュズという二つの地域に限定し、それぞれにおけるロシア帝国統治体制の形成過程を比較分析し、帝国による草原統治の地域性を明らかにすることを目的とする。分析に際しては、現地の帝国権力機関と、カザフ遊牧民からなる帝国統治の仲介者とのかかわりに着目し、特に後者が示した帝国に対する「忠誠」の具体的な内容に焦点をあてる。

ロシア・カザフ関係史において画期となったのは、中ジュズおよび小ジュズにおいて、それぞれ管区制度と部・区域制度が導入された 1820 年代である。両制度の主眼は、カザフ草原を領域的な行政区画に分割することであった。これらの行政制度における統治の仲介者は、管区制度の上級スルタン職や部・区域制度の主管スルタン職などのように、現地人官吏として帝国秩序の中に組み込まれた。現地人官吏は、一部の例外を除き、先行する時代には存在しなかった。したがって、1820 年代の前と後では、それぞれの時代における帝国統治の様相が本質的に異なっていたといえる。そこで本報告では、まず、1820 年代以前にカザフ遊牧民が示した「忠誠」を考察する。次に、そこから得られた「忠誠」の具体的内容を踏まえつつ、管区制度や部・区域制度の導入以降に関しても同様に考察を加えていく。主に使用する史料は、帝国が公布した諸法令およびカザフ遊牧民から当局へ宛てた請願書、そしてこれらに加えて、ロシア帝国とかかわりをもったカザフ遊牧民の個人情報が記されている職歴表や名簿である。

19 世紀前半のロシア・カザフ関係を考察するに際しては、当時のカザフ草原を取り巻く国際関係を踏まえる必要がある。当時、ロシア・清朝間、およびロシア・中央アジア諸ハン国間関係においては、カザフ草原を通過するキャラバン隊の安全保障が最も重要な問題の一つであった。キャラバン・ルートの安全保障の必要性が背景となり、カザフ遊牧民によるキャラバン隊の護送が帝国によって高く評価された。これはカザフ遊牧民が帝国に示した「忠誠」として認識され、小ジュズ、中ジュズの別なく評価の対象となった。彼らには様々な褒賞品に加えて、コサック軍ないしは帝国陸軍の将校の称号が授与された。これに加えて、当

時の重要な国際関係上の諸問題として、ロシア・清朝間の国境画定問題やロシア・中央アジア諸ハン国間の奴隷売買問題などが指摘できる。前者は、主に中ジュズにかかわる問題であった。このため、中ジュズ・カザフの帝国に対する臣籍宣誓、およびロシア帝国と清朝の境域地帯に分布するカザフ遊牧民に臣籍宣誓を斡旋することが「忠誠」の証として評価された。一方の奴隷売買問題は、主に小ジュズを中心とした地域にかかわる問題である。カザフ遊牧民は、同地を通過するキャラバン隊や近隣のロシア系住民をしばしば略奪し、略奪を受けた人々は奴隷としてヒヴァ・ハン国へ売りとばされていた。この問題が背景となり、当地における治安維持活動に貢献することが「忠誠」の証となった。具体的には、バシキール人やタタール人などの逃亡兵士の捕縛および略奪を行うカザフ遊牧民を防除することが「忠誠」として認識された。

管区制度および部・区域制度が導入されると、カザフ遊牧民が示す「忠誠」の評価基準、および彼らへの待遇も部分的に変容した。まず、「忠誠」を示した者は、現地人官吏として新しい統治体制のもと職位をもった仲介者となった。西シベリア総督府管轄下の現地人官吏に関しては、従来のキャラバン隊の護送などに加えて、管区制度の受容・浸透させることが特に重要な評価基準であった。一方、オレンブルグ県管轄下の現地人官吏に対しては、従来の治安維持活動に加えて、部・区域制度を受容しないカザフ遊牧民の排除が求められた。加えて、当地のカザフ遊牧民は、新たな秩序体系に反発する形で発生した諸叛乱の鎮圧活動にも多く動員された。そしてこのような軍務への協力が「忠誠」として評価された。

帝国統治の仲介者という役割を担ったカザフ遊牧民は、自らの利益・関心に基づいて「忠誠」を示していた。本報告で検討した仲介者は、帝国への「忠誠」と引きかえに、自らの生活を保障することを帝国に求めた。具体的には、遊牧地の確保および生活資金の支弁を帝国に要求した。

以上の考察から、19 世紀前半のロシア帝国によるカザフ草原統治を、帝国による「上から」の強制という観点で説明することには限界があり、現地における諸々のアクターが相互に作用しあうことによって統治体制が形成されていったことが明らかとなった。そして、草原内の各地域における帝国の統治政策は必ずしも一様ではなく、中央ユーラシア国際関係の展開の中で規定される、地域毎に帝国が望んだ役割があったのである。

（東京大学大学院人文社会系研究科修士課程）